

## 昆虫を捕らえて標本つくったよ!

理事 大西 隆史  
生7一環 松本 恒司

8月21日(日)しあわせの村内の「あおぞら」を会場に”親子であつまれ自然あそび塾～昆虫をさがして標本をつくろう～”を開催した。

イベントは(財)長寿社会開発センターの助成を得て、県立人と自然の博物館との協賛事業として行った。

夏休みが終わりに近づ

くグループが刈り取った草を積み上げて作った堆肥塚(通称、落ちバンク)を掘り起こしたが、なかなかお目当てのカブトムシは見つからない。やっと立派なカブトムシの成虫が見つかって、子どもたちも歓声を上げて取り出していた。

昼食のあと、昆虫標本作りのスライドを使って

昆虫がいること、捕まえることができ楽しかった」、「昆虫には血管がないことを初めて知った」、「楽しかった。また来たい」(こども)、「昆虫の標本作りを正式に習って有意義であった」、「昆虫採集・標本作りをこどもと一緒にして絆が強まった」(大人)など楽しかった、また来たいといったものが多く、なかなかの好評であった。

このイベントには「グループわ」から環境部会「ビオトープグループ」、「里山グループ」と本部あわせて28人が企画立案から当日の進行までに参加したが、大勢

の親子の笑顔に準備の疲れも癒された一日だった。今後は標本を作るだけでなく、昆虫が食べる植物との関係、食べたり、食べられたりする昆虫と昆虫の関係、昆虫と人間との関係などを考える催しを考えたい。例えば、アゲハチョウが生きてゆくには柑橘類の植物が必要だとか、クワガタがいる森には、必ずカミキリムシがいる。アシナガバチの子育てにはイモムシや毛虫が必要といったことなど、子どもたちに昆虫採取に際しての基礎知識を学んでもらえるようにしたいと、ビオトープクラブでは計画している。◆



昆虫の標本作りの指導を受ける子どもたち

いた時期ともかさなって36家族98人(大人44人、こども54人)を数え、ミーティングルームが溢れんばかりの盛況であった。

午前と同博物館の大谷剛先生の昆虫採集についてのお話のあと「あおぞら」周辺での昆虫採集に出かけた。受付開始時の雨も上がった薄曇りの下、それぞれ獲物を求めて元気よく飛び出した。

今年は少雨のせいかわ、トンボや蝶はやや少なかったようである。でも標本作りには十分な昆虫を捕まえることが出来たようで、子どもより親が夢中になっているファミリーもあった。

また、ビオトープグル

ープ大谷先生のお話があり、そのあと先生と博物館の3人のアシスタント嬢の指導で、家族ごとに採集した昆虫の標本作りにとりかかった。

標本作りは親子が協力しながら懸命に取り組む、インストラクターの丁寧な助言や手助けもあって、1時間余りのうちにすべての家族が作品を完成させることができた。中には立派な作品を標本台2、3台も作って持帰りケースに入りきれない家族もみられた。

参加者の感想を要約すると「昆虫の標本を作ることは命を殺すことだから昆虫の命を無駄にしないよう標本を大切にしたい」、「いろいろな

## 「昔あそび研究会」に お礼状が届きました

\* \* \* \* \*

聖ミカエル南五葉幼稚園  
母の会副会長 的場 美和子

去る8月1日、猛暑の中、私ども聖ミカエル南五葉幼稚園の母子のために「昔あそびの会」をご指導頂きましたこと心より御礼申し上げます。今回の会は参加した親子にとっても好評でした。

正直なところ日頃母子でじっくり工作をする時間はなかなか得られません。また、普段は核家族同士のお付き合い中心の世代にとって、おじいちゃん、おばあちゃんと触れ合うこと、日本の伝統や文化的なものを教わる機会があまり無いのが現状です。

その意味で新鮮な環境の中で、一緒に作った紙(竹)トンボ、ビュンビュン、独楽はとても楽しく、あっという間の2時間でした。オモチャに不自由しない子どもたちにとって、身近な材料で創ること、最初から最後まで自分で創り、遊ぶコトを得るまでじっくりと取り組む”達成感”の重要性を改めて感じました。

幼児期における子どもたちにとって、貴会の存在と活躍はとても意義あることです。今後ますますのご活躍を期待すると共に、再び幼稚園にお越しいただけることを切に望みます。ありがとうございました。